

## 個人ワーク・グループワーク

「ボランティアによる高齢者の生活支援について」

	案①	メリット（効果）	デメリット（課題）
テーマ	お助け隊の活動の活性化	支援したい人、既にしている人が登録することで、スキルアップ。	互助活動にポイントを付与するのはおかしい。
養成研修受講者	お助け隊の会員	支援したい人、既にしている人が受講することで、スキルアップ。	全会員が受講することは難しい。 既に活動している会員に研修をする必要はあるのか。
従事者	お助け隊の会員		山間部はボランティアを確保できない。市全体でボランティアを確保して、各地域へ回してほしい。
利用者	お助け隊利用者		遠慮の気持ちがある。 近所に人には頼みにくい。
支援内容	各地区のお助け隊の活動内容（ごみ出し、買物、草取りなど）		ごみ出しなどは近所の人に頼みにくい。 各地区にルールがあるので、統一するのは難しい。
ポイント付与	養成研修を修了したお助け隊の会員が活動した場合、会員に付与する	ポイント付与することでお助け隊が活性化。 利用者は利用料がかかることで、割り切って利用できる。	互助活動なのでポイントを付与することは返ってマイナスになる。 ポイント付与するならきっちりした決まりごとが必要だが、各地区のルールを統一するのは難しい。
案① に対する意見	電気店や水道業者にボランティアになってもらえば、多少専門的なことにも対応してもらえるのでは。		

	案②	メリット (効果)	デメリット(課題)
テーマ	新規ボランティアの掘り起こし	地域の活性化、人材発掘。 既存のボランティア活動を周知。	地域格差が出る。 新規のボランティアは長続きしない人も出てくるのでは。
養成研修受講者	新規に募集 (各地区で活動できる人)	軸になる新たな人材発掘。 得意分野の活用。 学生の活用。	地域に軸になる人がいないと続かない。 市全体ではなく、小さいエリアでの研修が必要。
従事者	養成研修修了者	意識が向上し地域力が上がる。 新たな人で新しい活動が出来る。	研修受講のみで活動できない人がいるのではないか。
利用者	ミニデイ、コミュニティカフェ、お助け隊の利用者(既存のボランティア活動を紹介)	既存の活動なので内容がわかりやすい。	既存のサービスを利用していない人の支援。
支援内容	ミニデイ、コミュニティカフェ、お助け隊等でのボランティア活動	得意分野を伸ばせる。 利用者にも役割を持ってもらう。	利用者がお客さんになっている。もてなし過ぎ。
ポイント付与	ポイントは付与しない		
案② に対する意見	<p>小さい地域で活動できるボランティアと大きい地域で活動できるボランティアの育成が必要。</p> <p>大学生の活用がいいのでは。</p> <p>小学生の頃からボランティアに興味を持ってもらい活動に繋げる。</p>		

	案③	メリット（効果）	デメリット（課題）
テーマ	介護専門職不足の解消		
養成研修受講者	新規に募集（高齢者、主婦等）	働く場を提供できる。グループや知人同士で受講すればいい。	やりがいを感じられる広報、不安が解消できる広報が必要。
従事者	養成研修修了者		1対1ではなく。グループやペアで支援する仕組みが必要。
利用者	総合事業対象者 要支援1・2		
支援内容	在宅での家事援助等 専門職でなくても可能な支援		活動内容の見える化が必要。
ポイント付与	養成研修修了者が高齢者の生活支援をした場合ポイントを付与する		ポイント付与が継続できる仕組みが必要。
案③ に対する 意見	何かあったときのマネジメント体制が必要。 キャッチコピーをしっかりとって、広報、周知が必要。		